



【令和3年度災害対処訓練】

令和3年12月5日

令和3年12月5日（日）自衛隊札幌病院（病院長：鈴木陸将）は、道央地域（札幌地区）における大規模地震を想定し令和3年度災害対処訓練を実施した。統裁官（病院長）は訓練の開始に当たり、「連携要領の確立」及び「医療安全・感染管理意識の徹底」の2点を要望し、「各種初動対処要領及び各種計画の実効性について検証し、事態発生時における即応性を含めた能力の向上を図ってもらいたい。」と訓示した。

訓練は7時57分に震度6の札幌直下型地震発生状況付与から開始され第3種非常勤務態勢に移行、部隊当直司令が電話による非常呼集を開始し病院職員は登庁後、速やかに指揮所の開設等に移行するとともに職員の被害状況の把握及び病院機能の早期発揮並びに被災者等の受入れを第一義とし所要の準備を実施した。その後、自衛隊札幌病院救護班及び北部方面衛生隊兼務医官を北部方面衛生隊に配属、各師団等にその他の医官を配属し救命率の向上を図るとともに、被災者の受入を積極的に行うなど札幌市災害時基幹病院としての役割を果たすよう訓練を実施した。

また、北部方面総監（沖邑陸将）の訓練視察を受け、病院の今後の課題等についてご指導を賜った。今訓練において業務継続計画の実効性向上及び早期における初動態勢の確立並びに各部課等との連携の重要性を再認識し訓練を終了した。



当直による電話呼集及び状況把握



病院救護班の派遣準備



演病院長（小原将補）への派遣準備完了報告



病院玄関前での傷者受け入れ状況



受入傷者への治療



北部方面総監視察（4B病棟）